

黄体ホルモン製剤（CIDR）を用いた牛の過剰排卵処理

畜産試験場

1 取り上げた理由

過剰排卵処理の効率化を目的に発情周期に関係なく黄体ホルモン製剤（CIDR）を膣内に挿入し、過剰排卵処理・採卵を行うことおよび計画的に35日間隔で連続処理し反復処理も可能であることが明らかになったので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) CIDR を発情周期に関係なく、膣内に挿入する。
- 2) CIDR 挿入後10日目から過剰排卵処理（ホルモン処理）を実施する。
- 3) CIDR 挿入後14日目に $PGF_2\alpha$ の投与と同時に CIDR を除去し発情を誘起する。
- 4) CIDR 挿入から21日目に胚を回収し、さらに胚の回収から14日目に（すなわち最初の CIDR 挿入から35日目に）2回目の CIDR を挿入し、連続2回の過剰排卵処理を行う（1クール）。
- 5) さらにクール間を63日で3クール反復処理も可能である。

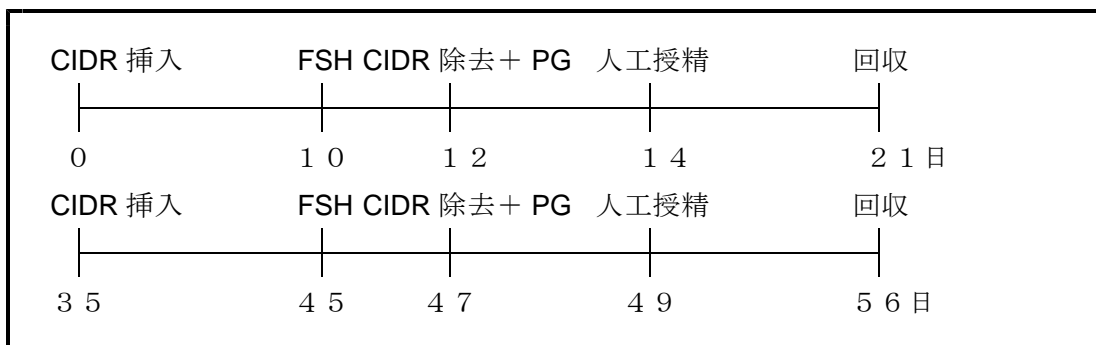


図-1 CIDR を利用した2回連続過剰排卵処理スケジュール（1クール）

3 利活用の留意点

- 1) 3クール連続の過剰排卵処理において、各処理時の2回目で成績がやや低下する。

（問い合わせ先：畜産試験場酪農肉牛部 電話0229-72-3101）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名および研究期間

黄体ホルモン製剤 (CIDR) を用いた過剰排卵処理

平成4年度～

2) 参考データ

表に成績を示した。

表-1 黄体ホルモン製剤利用による過剰排卵処理成績 (全体)

処理区	頭数	平均 黄体数	平均 回収卵数	平均 正常胚数	正常胚率 (%)
CIDR	97	9.7±7.1	8.7±7.5	5.1±15.1	57.9
無処置	46	10.0±6.1	9.2±6.3	4.6±4.2	50.0

性腺刺激ホルモン = FSH 20AU 減量・PVP FSH 30AU・PMSG 2000iu

表-2 黄体ホルモン製剤利用による2回連続過剰排卵処理成績

処理区	頭数	平均 黄体数	平均 回収卵数	平均 正常胚数	正常胚率 (%)
1回目	24	10.5±7.3	9.7±7.8	6.5±5.3	67.4
2回目	24	10.6±6.7	9.7±7.0	6.1±3.8	62.7

性腺刺激ホルモン = FSH 20AU 減量・PVP FSH 30AU (発情周期に関係なく CIDR 利用により 35 日間隔で連続採卵)

表-3 黄体ホルモン製剤利用による3クール反復の過剰排卵処理成績

クール	頭数	平均 黄体数	平均 回収卵数	平均 正常胚数	正常胚率 (%)
1	18	9.2±1.3	8.2±1.4	6.0±1.2	73.2
2	18	9.8±1.4	8.7±1.3	5.8±1.3	66.7
3	18	12.5±1.6	11.0±1.9	8.2±1.7	74.5

1クールは 35 日間隔で2回連続過剰排卵処理, クール間は 63 日間隔

3) 発表論文等

膈内留置型黄体ホルモン製剤 (CIDR-B) を用いた黒毛和種における連続過剰排卵処置

J Reprod Develop, 43: j27-j32, 1997